

第1回 EBP M推進委員会（令和5年4月13日）  
議事要旨

【開催日時】

令和5年4月13日（木）14時00分～15時00分

【場 所】

オンライン開催

【出席者】

（構成員）藤井 健志 内閣官房副長官補（内政担当）を始めとするEBPM推進委員会構成員

（関係者）財務省主計局総務課長  
各府省会計課長等

【議 事】

1. 会長挨拶
2. 今後のEBPM推進について
3. 意見交換

【議事の経過】

1. 会長挨拶

会長である藤井内閣官房副長官補から挨拶があった。要旨は以下のとおり。

- 本年度から、行政事業レビューを抜本的に見直し、全ての予算事業にEBPMを導入して予算編成過程で活用することとした。
- このため、本委員会も行政改革推進会議の下に移管したが、本日は、今後の方針や政策立案総括審議官等の皆さんに期待する役割について、五点お話ししたい。
- これらについては、皆さんから次官をはじめとした幹部に周知徹底し、幹部・管理職の意識・行動の変容につなげるとともに、行革事務局や本委員会に具体的に提案をしてもらいたい。
  
- 一点目。今回の抜本見直しでは、レビューシートを「予算執行実績など過去の事実の説明」ではなく、政策のロジックや目標などを中心に「政策立案や予算要求という意思決定」の一環となるよう設計している。こうした性格の転換を、各府省の次官以下の幹部・管理職が理解して、自ら責任を持ってレビューに取り組

む必要がある。このことを皆さんから省内に徹底してほしい。

- 二点目。今回共通して求めるEBPMは、「政策効果の発現経路と目標をロジカルに説明し、事後的にデータに基づいて見直す」というごく当たり前のことをやろうとしているもの。今までEBPMというと、厳密な要件定義のようなものがあり、学術的に高度なものを求めてきたと理解しているが、今回はそういうことではない。
- また、予算編成過程での活用は、予算編成の局面で予算をつける・つけないという理由を探ることではなく、予算と政策の質を向上させることが目的。部局が普段から考えているであろうことをロジカルに、なおかつデータに基づいて説得的に記述することを徹底してほしい。
- 三点目。予算事業は全部で5,000あるが、この5,000の様々な事業のシートの作成・点検について、画一的なやり方を当てはめるものではない。事業の性格を踏まえたメリハリなど、合理的・効率的なやり方をしていただきたい。そのやり方については、行革事務局や本委員会でオーソライズし、後押しするので、各府省の仕事、それぞれの予算事業の性質に合ったやり方を検討し、提案してほしい。また、政策評価との関係についても、一体的で効率的・効果的な対応を検討してほしい。
- 四点目。政策効果の分析などについても、現場で対応できないような高度に学術的なものを求めるものではない。行革事務局や総務省から「こうしたやり方が十分実用的」という例を、今後、示していくので、これらを活用いただきたい。
- 最後に、基金事業について。近年、活用が拡大している基金事業についての点検を強化する。特に、造成後間もない基金については「政策効果の見える化・最大化」、長期にわたる基金については「終期の設定や保有資金の規模の点検」に重点的に取り組むこと。今まで、「終期の設定や保有資金の規模の点検」に問題意識が偏っていたと思うが、先ほど申し上げた造成後間もない基金については、むしろ基金を作って事業を行って、それがしっかりと効果を上げているのかということが重要という観点から、政策効果の見える化・最大化というものを点検の項目として入れているものである。

以上五点、よろしく願います。

## 2. 今後のEBPM推進について

行政改革推進本部事務局から、今後のEBPM推進について説明が行われた。  
(資料1)

## 3. 意見交換

財務省主計局から、予算編成過程でのレビューシートの活用等について、  
総務省行政評価局から、EBPM推進に係る総務省行政評価局の取組について  
(資料2-1)、

総務省(資料2-2)、デジタル庁(資料2-3)及び法務省(資料2-4)  
から、政策評価と行政事業レビューの一体的な運用等のメリハリを付けた取組に  
ついて、説明が行われた。

その後、総務省政策統括官(統計制度担当)から、統計データアナリスト等  
について発言があった。(参考資料9)

以上